

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月5日(月)

会場:作木山村開発センター

参加者数:61人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>作木には山林という資源がある。山林を活かした地域づくり。木材を地域通貨として集約して循環させ、市内の商店などで使える地域通貨として利用してはどうか。藩札は一過性のものでしかない。山も生き、商業、地域も回るという地域通貨をぜひ取り入れてもらいたい。</p>	<p>森林資源は貴重な財産であり、資源であると考えている。一部の地域では、森林所有者と地域、行政が一緒となって取り組んでいる事例もある。持続性に課題もあると聞いている。三次でどのような取組ができるか研究していきたい。思いを聞かせていただき、方法を考えていきたい。</p>	
<p>NPO法人元気むらさくぎでは、職員18名、パートも含めると約30名を雇用している。地域で頑張る若者が生活していけるよう取り組んでいる。地域で頑張っている若者が希望を持てるような産業を地域で起こす必要があるし、実践もしている。市としても、若者が希望を持って生きていけるような事業や賃金の底上げや体制作りに力添えをお願いしたい。</p>	<p>NPO法人元気むらさくぎは、藤山浩氏(一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長)の分析でも、他の地域にない作木地区の大きな強みであるとされている。農業、福祉、観光、交通、地域の課題や資源を横つなぎにした事業に取り組んでおられ、地域の暮らしをサポートしているNPOの取組は作木町にとっての大きな強みである。市では、若い人の人材育成に取り組み、昨年「地域自慢大会」等を実施し、その取組を通して、若者が地域で活躍できるようなサポートに力を入れていきたいと考えている。</p>	
<p>江の川を活かせば観光づくりになるかもしれないが、地域が高齢化して息切れしているので、行政主導で地域を活かしたまちづくりをやってほしい。過去に漢方薬の話もあったが立ち消えになってしまった。個人ではなく、工場化して若者を雇用するなどしないと後が続かなくなる。出産費を無料にするなど、子どもに対する事業で、人口減少を逆手に取ったまちづくりに取り組んでほしい。 意見のため回答は不要。</p>		
<p>・常清滝には四季を通じて観光客が来る。もっと魅力のあるものにして集客を増やしたいが、周りは、休耕田が広がり、雑木が生え、手つかずの荒れた状態になっている。平成28年2月に、三次市は、江の川水系の関係する5項目を「ふるさと名物」として宣言した。県内初の宣言。江の川水系がもたらす自然の恵みというテーマで鮎と鵜飼、霧の海、常清滝、ピオーネ、どぶろくの5項目を宣言している。市の宣言が、常清滝の活用に結び付いた実感がない。現在どうなっているのか。地域も頑張るが、市の支援について伺いたい。 ・三川合流地点など江の川水系の自然がもたらす恵みは大事な資源である。道路と川の間を生えているたくさんの木をきれいにするなど、江の川が美しく見える環境整備をしていただきたい。</p>	<p>・常清滝には市外、県外、海外からも多くの観光客が訪れている。昨年、常清滝へ登る歩道の支障木の伐採等の整備も行っている。 ・江の川の景観整備については、国の管轄のため、市では難しい。三川合流部ではかわまちづくり懇話会を行っている。その中で、国に要望を伝えていく。 ・ふるさと名物宣言についての取組として、三次の酒で乾杯がある。どぶろく特区を取って地元の酒を造っている地域もある。他の取組として、官民一体の広域的な観光をどうしていくのか。備北観光ネットワーク協議会。備北エリアの魅力を結び付け、地域の滞在時間を増やして、観光消費額を増やす取組。これもふるさと名物宣言の一つの取組である。関係機関と協議しながら、常清滝も含めた活用策を考えていきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月5日(月)

会場:作木山村開発センター

参加者数:61人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・三次市のまちづくりについて、7つの項目について具体的に話をしていただいた。事業の多くは地域で展開される。事業展開をする中で、地域との関係、市内に19ある住民自治組織への分権をどのように考えているか。施策展開する中で、地域への分権は重要な課題である。基本的な考えを伺う。</p> <p>・ICTを進める中で、支所の職員を増やし、テレワークで本所と支所をつないで仕事を進めていくこともICTの具体化の方法ではないか。</p> <p>・地域づくりの基本は、地域の人たちの力量をどう付けていくか。市町村合併後、16年間、公民館が廃止され、大人への教育の機会が作られることなく進んできた。社会教育等大人への学習の機会を作るため、各支所にも社会教育主事の資格を持つ職員を優先的に配置してほしい。SDGsの考え方をもっと表に出して市行政の位置付けが大事である。</p>	<p>・事業展開について、市内19自治連合会と連携して地域への分権を進めていく。具体的にどの部分を分権していくかは、今までも取り組んできたが、未来に向けて永遠のテーマの部分ではないかと思う。地域にしかできないこと、行政にしかできないこと、それぞれの思いを尊重しながらまちづくりを行っていくことが基本である。SDGsの目標をクリアすれば、三次は理想に近づいていく。提言いただいたことを地域づくりのヒントにさせていただきたい。自治連、関係団体とコミュニケーションを取りながら、地域に合った、個性を活かしたまちづくりを進めていきたい。</p> <p>・ICTを活用したテレワークについて、三次市は光ケーブルの情報基盤が整っている。少子高齢化が進む中、市役所の体制が今と同じように続けることができるか不透明だが、行政サービスはこれからも提供し続けなければならない。より効率的で充実した行政サービスを提供できるよう、ICTの活用なども検討していきたい。</p> <p>昨年度、第2次総合計画を見直す中で、直接的にSDGsの取組として整理している訳ではないが、方向性は基本的には同じものと考えており、総合計画を進める中で、SDGsの推進につながってくるものと考えている。</p> <p>・社会教育の重要な役割を家庭教育が担ってきた。それぞれの役割を意識することが大事。SDGsの事もだが、持続可能な教育として、EST教育も行っている。どのような形で市民のニーズに答えることができるか、改めて教育委員会も含めて考えていきたい。生涯学習の中でやってきたことを出前講座でも行っている。また話を聞かせていただきたい。</p>	
<p>・市道法面に木が茂っている。市道の法面環境整備をお願いしたい。</p> <p>・高齢で家庭ゴミを集積場所に持っていけない家庭が年々増えている。ごみの収集ができないか。</p>	<p>・場所についてできるだけ情報をいただき、現場を確認し、緊急度の高いもの、やらなければいけないところは対応する。現在は、支障木伐採については、報償費を出して地元で対応していただいております。大きくて危険な場合は、市で切らせてもらっている。場所を見させていただき、どういう対応が適当か検討したい。</p> <p>・高齢者や障害のある方など、ゴミ集積場所に行けない方のために、ふれあい収集を行っている。個別に相談していただきたい。</p>	<p>【対応状況】</p> <p>●支障木 ⇒現地確認により2か所の路面保全を行うことを決定した。</p> <p>●ふれあい収集 当該者より申請があり、ふれあい収集を決定した。</p>
<p>防災について、作木では、山村開発センターが基幹避難所、その他、3カ所が補助避難所に指定されている。三次市のホームページでは、土砂災害に関して△の印がついている。補助避難場所も△が付いている。△はどういった意味か。ずっと△が付いたままか。</p>	<p>△の印は、使用できないわけではないが、土砂災害の危険があるというもので、2階以上に避難すれば、土砂災害を受けず避難ができるという表記である。地域によっては、近隣に危険区域外で適切な施設がないところがある。作木地域は急峻な山と細い谷と江の川等により土地が狭く、災害の危険性という面では厳しい土地である。山村開発センターは、土砂災害の危険はあるが、頑丈な鉄筋造りで2階に避難すれば命を守ることができる。現状では△はこのままだが、早めに避難するということを徹底していただきたい。</p>	
<p>道路にかぶさった木などで枝が軽トラに当たることがよくある。木を自分で切ったり、側溝を自分で掘ったりすることもある。市民からの報告がないとわからない体制なのか。どういった体制で市道の管理をしているのか。</p>	<p>支所管内に関しては支所、旧三次管内は本庁で巡回し、対応しているが、延長が長く、すべてを網羅して見て回るのは難しい。郵便局とも連携し、市民の方からも教えていただいている。かなりの延長があるため、職員がずっと巡回して見て回るのは難しい状況である。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月5日(月)

会場: 作木山村開発センター

参加者数: 61人

参加者の発言	市の発言	備考
定住対策について、ふるさとサポーターを通じた情報発信について教えていただきたい。	三次市のふるさとサポーターは、三次の魅力を全国に発信して、多くの人に三次を知ってもらうために、三次市出身やゆかりのある方、三次市を応援したいという希望者に登録していただく制度。登録者には定住情報や地域情報の発信、市内の協賛店での割引など様々な特典を受けていただける。現時点での登録は750名程度となっている。ふるさとサポーターの呼びかけについては、都市圏での交流会などで紹介させていただいている。希望するサポーターにはPR名刺の配布なども行っている。三次市を応援していただくための取組を今後も続けていきたい。	
冊子(懇談会配布資料)では有害鳥獣対策について触れられていない。有害鳥獣対策が作木町にとっては一番の課題である。有害鳥獣対策について、しっかり検討していただきたい。	有害鳥獣対策は大きな課題だと思っている。市としては、侵入の防止、地域集落の環境改善、捕獲の3つの対策を総合的に進める取組を行っている。集落ごと、地域ごと全体で防止対策を考え、取り組むことが効果的であると考えている。出前講座の開催やモデル集落を作ってみんなで活動していく取組を行っている。すぐに有害鳥獣の被害を防止できるということではないが、集落でもねばり強い活動をお願いしたい。駆除班には、昨年、1600頭余りの駆除をしていただき、精力的に出動していただいている。駆除班の後継者育成も含め、狩猟免許の取得支援やシカの捕獲報奨金事業など、総合的な取組を実施している。地域でも集落ぐるみの防止活動に取り組んでいただきたい。	